

1. はじめに

今年度も本専門部部長を梶原裕隆先生(鹿島高等学校長)にお引き受けいただきました。また、長きにわたり陸上競技専門部のために尽力されました副専門委員長の吉田智博先生(唐津南高校教諭)が退任され、その後任として田中孝司先生(鳥栖工業高校教諭)に加わっていただくことになりました。

陸上競技専門部は、平均年齢が50歳を超えているので、若い指導者を加え、新しい考えのもとに新しい力を生み出すための新陳代謝が必要になってきました。

今年度も佐賀陸上競技協会に競技運営面、また選手の競技力向上にご協力をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

2. 昨年度(R1.9~)今年度(R2.8迄)を振り返って

昨年度の9月に開催された佐賀県高校新人陸上競技大会では男子が佐賀工業高校、女子では佐賀清和高校が総合優勝に輝きました。

個人では、山下昌峻(武雄2年)が男子100mで10秒71の大会新記録。中垣遙暉(鳥栖工2年)が男子5000mWで22分25秒67の大会新記録。宮原力丸(佐賀商2年)が男子やり投げで59m53cmの大会新記録を樹立。女子100mの永石小雪(佐賀北1年)が12秒00、原口舞衣(佐賀北2年)が12秒14とともに大会新記録を樹立。女子ハンマー投げの藤野愛奈(佐賀商2年)も40m42cmの大会新記録を樹立しました。5種目6名の大会新記録が樹立される、全体的にもレベルの高い大会になりました。

10月に開催された九州高等学校新人陸上競技大会では、鳥栖工業高校が男子総合で優勝に輝き、佐賀北高校が女子総合で8位に入賞しました。

個人では、男子で高山匠也(鳥栖工2年)が3000mSC(9分27秒25)、宮原力丸(佐賀商2年)がやり投げ(57m59cm)で優勝。山下讓尊(鳥栖工2年)が400m(47秒94)で2位。間瀬田純平(鳥栖工1年)が1500m(4分00秒14)で3位、久保田怜央(佐賀工2年)が走高跳(1m93cm)で3位、山下昌峻(武雄2年)が200m(21秒90)で4位、また山下は100m(10秒50)でも6位、溝上賢伸(白石2年)が1500m(4分00秒38)で4位、園田勢(鳥栖工2年)が5000m(14分30秒86)で4位、中垣遙暉(鳥栖工2年)が男子5000mW(23分08秒31)で4位、末次優太郎(鳥栖工2年)が400mで5位、田中翔大(佐賀工2年)が200m(22秒01)で6位、また田中は100m(10秒66)で7位、千代島宗汰(鳥栖工2年)が1500m(4分01秒88)で6位、川端夏輝(敬徳2年)が8種競技(4462点)で7位、多良周悟(鳥栖工2年)が3000mSC(9分38秒66)で8位、鳥栖工業高校(北川颯磨2年・山下讓尊2年・那須優太2年・末次優太郎2年)の4×400mR(3分25秒96)が8位に入賞しました。

女子では佐賀北高校(原口舞衣2年・永石小雪1年・森田彩楠2年・白水莉子1年)が4×100mR(47秒31)で2位、永石小雪(佐賀北1年)が100m(11秒88)で4位。佐

賀北高校(原口舞衣2年・永石小雪1年・稲田亜衣2年・朝永樹里2年)が4×400mR(3分53秒44)で4位、原口舞衣(佐賀北2年)が100m(11秒98)で5位、藤野愛奈(佐賀商2年)がハンマー投げ(42m43cm)で5位、前山夏希(佐賀清和2年)が200m(25秒42)で6位、また前山は400m(58秒49)でも8位、久原ひなた(武雄1年)が砲丸投げ(10m59cm)で7位、草場環緒(武雄2年)が円盤投げ(35m53cm)で7位、小松夕夏(唐津東1年)が1500m(4分32秒24)で8位、永田彩七(佐賀清和2年)が400mH(1分06秒59)で8位に入賞しました。

10月に実施した県高校駅伝競走大会では男子で鳥栖工業高校が10年連続44回目の優勝を果たしました。女子は白石高校が5年ぶりの優勝でした。

11月に大分県安心院町で開催された九州高校駅伝競走大会では、男子の部で鳥栖工業高校が3位(2時間06分26秒)に入賞しました。女子の部では白石高校が9位、佐賀清和高校10位と8位入賞まで、もう少しでした。昨年から比べると大きく成長した跡が見られ、今後に期待が膨らみます。

12月に京都で開催された全国高校駅伝大会では男子の鳥栖工業高校が2時間4分41秒で17位、女子の白石高校が1時間12分36秒で29位でした。男子の鳥栖工業高校はチーム新記録(2分短縮)が出たにもかかわらず今年の10位から7つも順位を落とす結果となりました。

本年度は新型コロナウイルス感染症のため6月いっぱいまで全国的に大会開催が自粛となり、佐賀県高校総体、北九州地区予選会、全国高校総体までもが中止になりました。

佐賀県では、その代替大会としてSSP杯高校スポーツ大会が企画され、時期は7月の下旬になりましたが、佐賀県高校総体と同等の大会を開催することが出来ました。残念ながら開催時期が7月下旬ということと休校期間が長かった影響から、高校3年生の参加が半分程度になってしまいました。試合の結果は、男子で佐賀工業高校が総合優勝、女子で佐賀清和高校が総合優勝を果たしました。

個人の男子では山下讓尊(鳥栖工3年)が400m(47秒21)で優勝し佐賀県高校新記録を樹立しました。また、女子では藤野愛奈(佐賀商3年)がハンマー投げ(45m76)で優勝し、藤野自身が持つ佐賀県高校新記録及び佐賀県新記録を大きく更新しました。

全国高校総体が中止になった代替大会として全国高校リモート陸上競技大会が全国47都道府県で開催され、佐賀県でも8月1日・2日の2日間で開催されました。

男子では、間瀬田純平(鳥栖工2年)が1500m(3分47秒95)佐賀県高校新記録・佐賀県新記録で全国ランキング1位、中垣暉暉(鳥栖工3年)が男子5000mW(21分10秒06)で全国ランキング2位、山下讓尊(鳥栖工3年)が400m(47秒52)で全国ランキング6位、田中翔大(佐賀工2年)が100m(10秒53)で全国ランキング7位、園田勢(鳥栖工

3年)が1500m(3分53秒03)で全国ランキング7位にランクインし、全国大会入賞レベルの選手が5人と、新型コロナウイルス感染症のため中止になった全国総体での活躍が期待できただけに悔やまれます。このほかにも全国ランキング30位以内(全国大会予選通過レベル)には20名ほどがランクインしており、4年後に佐賀県で開催される国民スポーツ大会に向けた競技力向上事業が成果を上げていることが分かる結果となりました。

女子では、永石小雪(佐賀北2年)が100m(11秒84)で全国ランキング3位、原口舞衣(佐賀北3年)が100m(11秒97)で全国ランキング9位にランクインしました。女子も全国ランキング30位以内(全国大会予選通過レベル)に15名程度がランクインしていました。男女とも全国ランキング50位以内(全国大会出場レベル)に30名以上ランクインしていて、全国に佐賀旋風が起きてもおかしくない年だったと推測されます。とても残念です。(例年、全国総体に30名から40名程度の選手を佐賀県は派遣しています。今年は70人近い選手を派遣できる結果が出ています。)

今年は全国高校総体(静岡)、国民体育大会(鹿児島)が中止となりましたが、10月の九州高校新人陸上競技大会及びU20/高校生日本陸上競技選手権大会(広島)と12月の全国高校駅伝大会(京都)が開催予定ですので、今後の活躍に期待したいと思います。

昨年からの課題であった競技力向上は、選手及び指導者の先生方の日々の努力と佐賀陸上競技協会強化部のご尽力により大きく結果を出そうとしています。残念ながら国民スポーツ大会が1年延期になり、これまで取り組んできた競技力向上事業を見直さなければならない事態となりました。また選手発掘からやり直しになる部分もありますが、我々、陸上競技専門部は競技会運営だけでなく、高校生アスリートが自分の夢や目標に少しでも近づけるような支援に努めなければならないと考えています。今後も引き続き、全国大会での入賞を目指し、様々な競技力向上事業を展開していきたいと考えています。

3. 最後に

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で大会開催が7月になったため、SAGAサンライズパーク陸上競技場での競技会開催が可能となりました。しかしながら来年度は、また改修工事のため、佐賀県高校総体と高校新人陸上大会を補助競技場で開催することになります。駐車場問題や予期しない事態が発生するなど、いろいろな課題が山積する年となりますが、来年度も佐賀陸上競技協会、佐賀県スポーツ協会、佐賀県高等学校体育連盟事務局のサポートを頂き、陸上競技専門部が一丸となって頑張りたいと思います。